

研究種目：基盤研究（B）  
研究期間：2007～2010  
課題番号：19330045  
研究課題名（和文） 格差社会の総合的評価方法の開発

研究課題名（英文） On the Unified Assessment for Economic Inequality

#### 研究代表者

福重 元嗣（FUKUSHIGE MOTOTSUGU）  
大阪大学・大学院経済学研究科・教授  
研究者番号：10208936

研究代表者の専門分野： 経済学  
科研費の分科・細目：経済学・経済統計学  
キーワード： 格差社会、資産・所得分配、不平等尺度

#### 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、格差社会を総合的に評価するため、個人のライフ・スタイルの多様化に対応した消費水準に基づく経済的な不平等の計測と住居から得られるサービスについてライフ・ステージによる変化を考慮した計測方法を開発することによって、格差社会と呼ばれるものを総合的に評価する方法を提案する。

分析を通じて、従来提案された経済的な不平等尺度を修正し格差社会を総合的に評価するための新たな指標や評価方法について提案を行う。

#### 2. 研究の進捗状況

(1) 格差社会を総合的に評価するための指標として、政府統計による不平等の評価方法の一つとして、家計による資本の所有形態や家事方法の違いに基づいた格差の発生について、一人当たりの生産性を分化し、消費水準の格差との関連について地域経済的な格差を評価する手法について論文を発表した。この論文については、現在、時間的な変化を含んだ評価方法への拡張を進めている。

(2) 個人のライフ・スタイルの多様化に対応した消費水準に基づく経済的な不平等の計測と住居から得られるサービスにかんする、アンケートを具体的に作成し、2008年度に関東地域を対象とした第1回目の調査、2009年度に、関西地域を対象とした第2回目の調査を行った。

2008年度の調査については、2009年度中に分析を進め、海外を含む3つの学会で、居住環境の評価方法に関連した論文の報告を

行った。2010年度では2009年度に行った調査をもとに論文をまとめる予定である。

2009年度に行なった調査については、現在データの整理を進めており、2010年度中に分析を行い論文にまとめる予定である。

(3) 2007年度、2008年度及び2009年度に行った、中華人民共和国、タイ、ベトナム、大韓民国及び台湾における調査より、高齢化の進展度合い、生活習慣の相違、自然環境の違いによる生活の豊かさの質的な違いは、格差の評価に対して多くの問題点を明らかにするものであった。国際比較のためには、何らかの金額表示された経済指標をもとに、格差の程度を計測し、比較することが必要であるが、現在、指標の作成可能性について検討中である。

(4) アンケート調査に基づく論文の他には、個人の消費水準をさらに検討し、ライフ・スタイルの変化や過去及び未来の景気変動の影響を考慮した経済的な不平等の計測を試みる新たな格差の評価方法について理論的に検討中である。

#### 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している

(理由)

2008年度に第1回目、2009年度に第2回目の調査を終えており、分析に必要なアンケート調査自体は終了している。また、中華人民共和国、タイ、ベトナム、大韓民国及び台湾、5カ国のアジアにおける格差問題に関連する調査も行った。現在、アンケート調査をもとに論文を作成していること、アジアでの調査も考慮した指標の作成可能性について理論的に検討中である。この他にも、政府統

計による格差評価の手法について、論文1本を発表済みであり、現在この論文をさらに発展させた研究を継続中である。以上のことから判断して、研究の達成度は約75%であると判断する。

#### 4. 今後の研究の推進方策

2008年度に実施した第1回目アンケート調査をもとに作成した3本の論文について、現在英文化し、国際学会での報告および国際的な査読雑誌への投稿を準備している。また、2009年度に実施した第2回目アンケート調査をもとに現在論文作成のためのデータの整理を進めており、今年度中には学会報告可能な論文にまとめる予定である。

格差社会を総合的に評価する指標について、アンケート調査に基づく論文をもとに、個人の消費水準をさらに分解し、ライフ・スタイルの変化や過去及び未来の景気変動の影響を考慮した経済的な不平等の計測を試みる新たな格差の評価方法について理論的な研究を進めており、この研究については今年度中に、データを用いた実証分析を伴った論文の形にまとめる予定である。

更に、いくつかの国においてヒアリング調査を行い、居住環境と家族構成の関係や、家族構成の違いによる居住環境から得られる効用水準の違いに対してこれらの国々ではどのように考えられているのかを調査する。

以上の研究の中でまとめられた個々の論文について、国内外での学会での報告、国際的な学術雑誌への投稿、という形で、個々の研究成果として発表するとともに、最終年度である2010年には、総合的にこれらの研究成果をまとめた報告書を作成する予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

- ① Noriko Ishikawa and Mototsugu Fukusuhige,  
“Households' Attitudes toward Earthquake Protection: An Empirical Analysis of the Impact of Fiscal Support in Japan,” *Journal of Housing Economics*, Vol. 19, No. 1, 51-65.  
2010年3月(査読有).
- ② Noriko Ishikawa and Mototsugu Fukushihige,  
“Impacts of Tourism and Fiscal Expenditure on Remote Islands in Japan: A Panel Data Analysis,” *Applied Economics*, Vol. 41, Issue

7, 921-928.2009年3月(査読有).

- ③ Mototsugu Fukusuhige and Noriko Ishikawa,  
“Decomposing interregional differentials in productivities: An empirical analysis for Japanese data”, *Economics Letters*, Vol. 97, 240-246. 2007年12月(査読有).

[学会発表](計5件)

- ① 石川路子 ・ ・ 福重元嗣, 2009年12月12日~13日 応用地域学会(山形大学)『高齢化社会における転居希望要因：関東地方における実証分析』
- ② 石川路子 ・ ・ 福重元嗣, 2009年11月22日~23日 日本応用経済学会(神戸大学) “How do people choose their primary care doctor?: an empirical research for Kanto area in Japan”
- ③ Noriko Ishikawa and Mototsugu Fukushihige, 2009年7月18日~19日 Institution and National Competitiveness (Seoul National University, Seoul, Republic of Korea) “Floor Space Demand in an Aging Society: An Empirical Investigation for Kanto Area in Japan”